

Make the elegance of the castle town of Kanazawa part of your life.

石川

SUTEKI

- 金沢漆器
- 金沢九谷
- 金沢箔
- 加賀友禅
- 加賀繡
- 金沢仏壇
- 希少伝統工芸

特集1

装うことが
美を磨く

加賀友禅

横笛奏者 藤舎真衣氏が語る

特集2

まぼろしの刺繡を
今に伝える技

加賀繡

金

工芸王国

装いの美学

沢

陰翳礼讃
金箔が伝える日本の美意識

横笛奏者 藤舎眞衣氏が語る

聞き手 加賀友禅作家・毎田健治

特集1 装うことが 美を磨く



女性が着て美しく、

衣桁に掛けても美しい、

加賀友禅は、

下絵、糊置き、

彩色、地染めなど、

スズメバネ縫い工程で多くの作家、職人の手を経て完成します。

横笛奏者として活躍する藤舎眞衣氏に、

加賀友禅の魅力について語っていただきました。

加賀友禅

毎田——眞衣さんご一家とは、

初代藤間勘菊であるおばあさまの

代からのおつきあいになります。

藤舎——母も私も毎田先生に

着物を作っていたきました。

毎田——今日眞衣さんが着て

いらっしゃるのはお母さまの着物

です。

藤舎——帯は着物の柄に合わ

せて花柄を選んで、帯締めは椿の緑

に合わせました。加賀友禅は色がき

れいですから、コーディネートを考

えるのが楽しいです。

ひとつですね。

私自身は以前、大きな舞台に立つと

きに先生に黒紋付を作っていただ

きました。松の緑が本当に美しく

て、私の一番のお気に入り着物に

なっています。

毎田——眞衣さんが舞台上に立

つ姿を見ると、この部分に模様を入

れたほうがよりきれいに見えるだ

ろうと創作意欲がわきます。着物の

表現は着ることを通して磨かれて

いくんですね。

藤舎——私は着物を着ること



作があつてはじめて美しい音色が出るものなのです。

毎田——海外公演に着物を着ていくことも多いのですか。

藤舎——はい。やはり自分自身の気持ちを引き締まりますし、まわりのみなさんからも必ず「Beautiful」と言っていただけで、印象がずいぶん違うようです（笑）。

毎田——作り手としても、やはり日本の女性を美しく見せるのは着物だと思います。

藤舎——ふだんは見えない八掛に模様をほどこすのも、日本らしい美意識ですね。

毎田——真衣さんと私は、笛と加賀友禪と分野は違いますが、日本の伝統を守り伝えるという点では共通するものがあるように思います。

藤舎——不易流行ということがありますが、どちらの世界にも絶対に変えてはいけない部分と、柔軟に変えていくべき部分があるのではないのでしょうか。たとえば私は洋楽の方とコラボレーションする機会も多いのですが、基本の笛の吹き方というのは決して崩しません。

毎田——加賀友禪には約五百年の歴史があります。先人から

着物を着て帯を締めると、すつと背筋が伸びて、自然としぐよこが優雅になります。

——藤舎

引き継がれてきた技術や精神性は安易に変えるべきではありません。一方で着物を着るのは「今」の人です。作風には時代性があつてしるべきです。

藤舎——わが家には加賀友禪で人間国宝に指定された木村雨山先生の着物がありますが、毎田先生がおっしゃるような不変の魅力を感じます。桜をモチーフにしたもので、花びら一枚一枚がいきいきとしています。

毎田——木村先生は、「自然こそわが師」という信念をお持ちで、花一輪、草一本描くにも、本物を見ると我々をご指導して下さいました。それは時代を超えた加賀友禪の精神性だと思います。

藤舎——笛も、竹と漆という自然界にあるものを使った楽器です。自然豊かな日本だからこそ育ま

れてきた文化だということも、加賀友禪と共通していますね。

毎田——現在、加賀友禪を伝えた扇絵師・宮崎友禅齋が金沢に移り住んで

ちょうど三百年にちなみ、私を含めた十四人の加賀友禪作家が想いを込めた手描きの飾り扇も制作しています。同じ作品は一つもなく限定品となっております。我々の意気込みを表しています。この新たな試みは、加賀友禪の世界をさらに広げてくれることと信じています。



毎田 健治 作 訪問着「山あい」

山あいにのびやかに成長する「ボタンヅル」をモチーフに、四季の移ろいを表現した作品。背景に紫のぼかしを入れ、空間に変化と奥行きを持たせるなど、斬新な構図の中にも加賀友禪の繊細な技法が光る。

加賀友禪も、笛も、自然が豊かな日本だからこそ育まれた文化です。

——藤舎



横笛奏者 藤舎真衣 どうしゃ・まい

平成6年に中川善雄氏に入門。平成7年笛家元藤舎秀達師より藤舎真衣の名を許される。平成16年金沢市文化活動賞受賞。平成18年北國芸能賞受賞。笛合奏、洋楽とのコラボレーションなどにも活動の幅を広げている。日本舞踊の初代顧問勘菊である祖母、二代目勘菊である母と三代に渡って古典芸能の世界で活躍。

日本人の心にも体にも、本質的には和のものが調和するのです。

——毎田



聞き手 加賀友禪作家 毎田健治 まいだ・けんじ

日本工芸会正会員 (財)石川県美術文化協会常任評議員 (協)加賀染振興協会副理事長

昭和15年金沢生まれ。昭和39年金沢美術工芸大学日本画科を卒業し、父・毎田仁郎氏に師事。昭和50年に日本伝統工芸展に初入選し、以降連続入選を果たす。日本工芸会正会員。石川県立音楽堂邦楽ホールへの製作や、インテリア分野への取り組みでも知られている。

絵師・宮崎友禅齋が金沢に移住して
三百年の節目の年。

加賀友禅作家が贈る

めでたい初春の

飾り扇

宮崎友禅齋が活躍したおよそ三百年前の京都。友禅齋は、扇絵師として広く知られた人気絵師で、井原西鶴の『好色一代男』にも書かれるほどだったようです。さらに、友禅齋の絵柄は小袖の文様としても取り入れられ、都では喝采を博したようです。やがて友禅齋はその腕を買われて加賀藩に招かれ、現在の加賀友禅の基礎となる下絵や意匠原案を提供。実制作は専門の染工たちが担当していたと考えられています。

今年、宮崎友禅齋が金沢に移り住んでちょうど三百年にあたります。友禅齋が扇に描いた模様が加賀友禅の絵柄につながったことちなみ、著名な十四人の加賀友禅作家が飾り扇を制作しました。作家それぞれの想いが込められた飾り扇は、めでたい新春にもっともふさわしいものです。また、四季の絵柄も用意されており、和室、洋室問わず、季節に応じて飾ることができます。

【月・松・梟の図】

百貫 俊夫（雅号：華峰）作

目出度さを
祝うかのよう
一羽のふくろうが
松の枝
月が見守る
おだやかな宵

【椿】

柿本市郎 作

寒さに耐えて
咲く寒椿
清楚な美しきこと
手描きによる
奥深さを表現

【福寿草】

茶谷 孝志 作

扇の中に咲き誇る
つつましきこと力強き
新年を祝う
門出の花



百貫 俊夫 [ひゃっかん・としお]
雅号：華峰 [かほう]

昭和19年生まれ。日展評議員、日本現代工芸評議員。
【受賞歴】昭和49年 日展初入選。平成6年 日展審査員、以降4回。平成14年 日本現代工芸展 文部科学大臣賞。平成

16年 日本現代工芸展 内閣総理大臣賞。平成22年 日展 文部科学大臣賞。平成23年 石川県文化功労賞、北国文化賞。「荒々しさの中にやさしさを秘めた絵を描いていきたい。自分の生き方や力強さをそ

のまま表したいと思い、加賀友禅の基礎を守りつつ、独学で新たな領域に挑戦しています。」



柿本市郎 [かきもと・いちろう]

昭和12年生まれ。30年より金丸充夫氏に師事し、木村雨山氏、能川光陽氏に指導を受ける。昭和42年に独立。伝統工芸士。石川県指定無形文化財加賀友禅技術保存会会員。
【受賞歴】昭和50年 加賀友禅いろどり会 北國新聞社長賞。以来、入選多数。昭和54年 伝統加賀友禅工芸展 銀賞。以来、連続入選。昭和56年 加賀友禅新作競技会 石川県知事賞。以来、入選多数。ほか、受賞歴多数。
「絵柄のデザインから、模様配置や着姿など、トータルで考えながら着物の全体模様を作りこみます。自然な色合いやこの目で見た草花のスケッチも大切にしています。」



【振振】

大村 洋子 作

目出度さが伝わる
松とぶりがぶり
心あたたまる正月の祝い

大村 洋子 [おおむら・ようこ]

昭和15年生まれ。45年より押田正義氏に入門し、日本画を中町進氏に師事。昭和52年独立。伝統工芸士。
【受賞歴】現代美術展洋画部門および日本画部門に入選あり。昭和54年 加賀友禅いろどり会 奨励賞。昭和60年 女流展 奨励賞。以来、連続入選。ほか、受賞歴多数。
「加賀友禅の着物をまとい、その人がより美しく輝くためのお手伝いをしたいという気持ちで描いています。そのために日本画も習い、加賀友禅の基礎技術を高めました。」



茶谷 孝志 [ちやだに・たかし]

昭和25年生まれ。43年より水野博氏に師事し、日本画を下村正一氏に師事。昭和55年に独立。伝統工芸士。
【受賞歴】昭和63年 伝統加賀友禅工芸展銅賞。平成元年 伝統加賀友禅工芸展金賞。ほか、受賞歴多数。
「自然の中で咲く花々をみずみずしく描きたいから、どこへ行くのにもスケッチブックを持っていきます。また、女性の着姿を想像しながら絵柄のポイントなどを考えています。」

【伊勢海老】

白坂 幸蔵 作

邪気を払う縁起物
正月飾りにふさわしい
力強く美しい伊勢海老



白坂 幸蔵 [しらさか・こうぞう]

昭和18年生まれ。34年より毎田仁郎氏に師事し、昭和47年に独立。伝統工芸士。石川県指定無形文化財加賀友禅技術保存会会員。
【受賞歴】昭和50年 加賀友禅新作競技会通商産業大臣賞。昭和59年 伝統加賀友禅工芸展 入選。平成2年 日本伝統工芸展 入選。ほか、受賞歴多数。
「古典的でありながら現代にも通じる加賀友禅が基本。時代に合った新しさも積極的に取り入れ、扇のほか、掛け軸など加賀友禅の技を生かした小物も制作していきます。」

【加賀獅子】

高平 良隆 作

加賀獅子に
立ち向かう
勇壮な棒振りの姿
正月らしくにぎやかに



高平 良隆 [たかひら よしたか]

昭和23年生まれ。42年より京都・尾花正雄氏に師事、44年より由水十久氏に師事し、昭和54年に独立。石川県指定無形文化財加賀友禅技術保存会会員。
【受賞歴】昭和55年 伝統加賀友禅工芸展 入選。以来、連続入選。昭和56年 加賀友禅新作競技会 名古屋通産局長賞。以来、入選多数。ほか、受賞歴多数。
「ひとつの草花を取り上げ、蕾から咲き誇るまでをストーリー的に表現する加賀友禅の模様が得意です。今回の扇は、子どものころに見た祭りの獅子を描いてみました。」

【波遊び】

中町 博志 作

春の光に包まれて
楽しげに戯れる水鳥と
繊細な色使いのはねる波



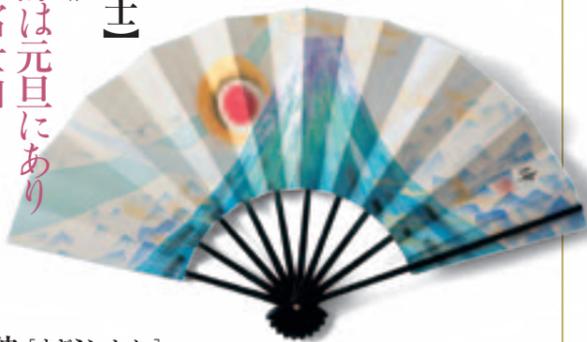
中町 博志 [なかもち・ひろし]

昭和18年生まれ。41年より直江良三氏に師事。伝統工芸士。石川県指定無形文化財加賀友禅技術保存会会員。
【受賞歴】昭和40年 一水会展 油絵 初入選。昭和46年 光風会展 工芸 初入選。昭和55年 日展 初入選。以来、連続入選。ほか、受賞歴多数。
「花鳥風月を写実的に描く基本を大切に、目の前にある自然をアレンジする自分流の個性も大切にしたい。たとえば、天から降る雨も私にとっては模様に見えてくるのです。」

【昇光富士】

杉浦 伸 作

一年の計は元旦にあり
日本一の富士山と
力強い日の出に運勢をみる



杉浦 伸 [すぎうら・しん]

昭和28年生まれ。46年より浅野富治男氏に師事し、昭和53年に独立。
【受賞歴】昭和53年 加賀友禅新作競技会 入賞。以来、入選多数。昭和54年 現代加賀友禅新作展 新人賞。以来、連続入選。昭和55年 加賀染創作競技会 入選。以来、入選多数。ほか、受賞歴多数。
「着ていただく女性をイメージして制作しています。加賀友禅の着物はフォーマルな場にふさわしい品格を備えていますので、そのためには日々のスケッチも欠かせません。」

【烏瓜】

由水 卓朗 (雅号：煌人)

妖しい不思議な
魅力を放ち
庭でひと際
目立つ朱い実
タネは打ち出の
小槌に似て縁起物



由水 卓朗 [ゆうすい・たくお]
雅号：煌人 [あきと]

昭和34年より京友禅・森口華弘氏に師事。伝統工芸士。石川県指定無形文化財加賀友禅技術保存会会員。
【受賞歴】昭和48年 伝統工芸日本染織展 入選。昭和52年 日本伝統工芸展 入選。以来、入選多数。昭和58年 伝統加賀友禅工芸展 銀賞。以来、入選多数。ほか、受賞歴多数。
「茶花を模様を選び、そこに意気と粋を見出し、自分の個性としています。古民家を工房にしているため裏庭に咲く自然の花々が題材になり、烏瓜は好きなモチーフです。」



【はるか】

毎田 健治 作

新年を祝う縁起物
控えめなやさしさに
秘めた力強さ



毎田 健治 [まいだ・けんじ]

昭和15年生まれ。39年より毎田仁郎氏に師事し、昭和52年に独立。伝統工芸士。
【受賞歴】昭和50年 日本伝統工芸展 初入選。昭和53年 日本伝統工芸染織展 文化庁長官賞。平成13年 石川県文化功労賞。平成17年 日本伝統工芸展 優秀賞。

平成23年 地域文化功労賞 文部科学大臣表彰。ほか、受賞歴多数。
「加賀友禅を受け継ぎ、後世に伝えていくことは日本文化を守ること。豊という日本の暮らしに沿った着物姿には、日本ならではの美意識の原点が宿っています。」



【雲取梅図】

鶴見 保次 作

金を散りばめ
雲取に
春を告げる
梅が咲き誇る
華やかでめでたい
飾り扇



鶴見 保次 [つるみ・やすじ]

昭和14年生まれ。日本画家・下村正一教授門下。日展会員。石川県美術文化協会・常任評議委員。伝統工芸士。
【受賞歴】平成8年 第28回日展(古代幻想) 特選受賞。平成9年 石川県現代美術展 最高賞受賞。平成10年 第30回日展(悠久) 特選受賞。平成21年 石川県文化功労賞。ほか、受賞歴多数。
「花鳥風月などの伝統的な模様を中心に、現代的で斬新なデザインも創作。下絵や糊置き、彩色、水洗いなどのすべての工程を丁寧になし、責任を持って制作しています。」



加賀繡ぬい

絹の上に浮かび上がった文様は、
金糸・銀糸やさまざまな色の絹糸を用いて
いと針いと針繡い上げたもの。
古くから女性の装いを彩ってきた
「加賀繡」の魅力に迫ります。

特集2
まぼろしの刺繡を
今に伝える技



【南天】
吉田 淳子 作
冬に赤い実を
つける南天は
「難を転ずる」縁起物
お正月が華やきます



吉田 淳子 [よしだ・じゆんこ]

昭和41年に金沢美術工芸大学卒業。43年より由水十久氏に師事し、昭和53年に独立。伝統工芸士。
【受賞歴】昭和56年 伝統加賀友禅工芸展 銀賞。以来、入賞多数。昭和62年 加賀友禅新作競技会 名古屋通商産業局長賞。以来、入賞多数。平成7年 石川日本伝統工芸展 日本工芸会賞。ほか、受賞歴多数。「着物が好きだからこそ選んだ加賀友禅の道。着る人をより美しく見せたいと思って描いています。茶の湯をずっと続けているため、私自身着物を着る機会も多いですね。」



【かます】
宮野 勇造 作
扇から飛び出し
てきこぞうな
一匹のかます
眺めるべきか食うべきか



宮野 勇造 [みやの・ゆうぞう]

昭和28年生まれ。51年に清藤武二氏に師事し、昭和59年に独立。伝統工芸士。
【受賞歴】昭和62年 加賀友禅新作競技会 金沢市長賞。以来、入選多数。昭和63年 伝統加賀友禅工芸展 金賞。以来、入選多数。平成8年 石川の伝統工芸展 入選。以来、入選多数。ほか、受賞歴多数。「得意とする加賀友禅模様は写実的な花鳥画ですが、扇はそれにとらわれず自由に、あえて色も使わずに墨絵にしました。自分の個性を楽しんでみるのもいいものですね。」



藤村 建雄 [ふじむら・たつお]

昭和22年生まれ。42年より東京・安達直次氏に師事し、昭和46年より金沢にて父・藤村加泉師に指導を受ける。
【受賞歴】昭和56年 日本伝統工芸染織展 初入選。以来、入選多数。昭和61年 伝統加賀友禅工芸展 入賞。以来、入選多数。平成2年 日本伝統工芸展 初入選。ほか、受賞歴多数。「牡丹や鉄仙などの花をテーマに描いています。女性を引き立てる上品さと日本古来の美しさ、その中に秘めたやさしさと現代女性の華やかさもあわせて表現していきたい。」



【鉄仙】
藤村 建雄 作
花言葉は
「美しい心」
心あらたまる新年に
ふさわしい花飾り



- 【加賀友禅作家】
大村 洋子
柿本市 郎
白坂 幸蔵
杉浦 伸
高平 良隆
茶谷 孝志
鶴見 保次
中町 博志
百貫 俊夫
藤村 建雄
毎田 健治
宮野 勇造
由水 卓朗
吉田 淳子
(五十音順)
石川 まゆみ
(加賀 保和紙)
中西 潤吉
(京 扇職人)

平成24年12月26日(水) - 31日(月)

会場 / 松屋銀座 7階 和の座ステージ

時間 / 午前10時 - 午後8時 (最終日4時閉場)

主催：金沢工芸普及推進協会 協力：協同組合加賀染振興協会 後援：金沢市

【お問い合わせ】 金沢工芸普及推進協会 金沢市広坂 1-2-25 TEL076-265-3320 HP <http://www.crafts-hirosaka.jp/> Email info@crafts-hirosaka.jp

新春
十四人の加賀友禅作家が描く
飾り扇展

金沢工芸普及推進協会では協同組合加賀染振興協会の協力を得て、「加賀友禅作家が描く飾り扇」を初めて制作しました。扇面の地紙には金沢の伝統工芸品である二俣和紙を使用し、著名な十四人の加賀友禅作家が作画したものを京都の扇職人が飾り扇に仕立てました。今回松屋銀座にて全国で初めての展示販売を行います。

宮越仁美 (みやこし・ひとみ) 作
お茶帛紗 手前「花唐草」
中「雪持ち笹」
奥「勝虫」

色鮮やかな絹布に金糸・銀糸、絹糸で繊細に刺繍を施したお茶帛紗。お好みのデザインを選んでお稽古も楽しみたい。

■W 270 × D 277mm
宮越仁美 繡工房
ショップ No ④ → P26



横山佐知子 (よこやま・さちこ) 作
ブックカバー

上質なレザーに刺繍を組み合わせ手縫いのステッチで仕上げている。色・柄・サイズもお好みに応じてオーダーが出来、手帳カバーも制作可。

■W 120 × D 165mm
加賀繡 IMAI
ショップ No ④ → P26



手仕事 が醸し出す 品格と美



荒井美智子 (あらい・みちこ) 作
フリーバック

「加賀繡をもっと手軽に」とのコンセプトで制作されたバッグ。黒地に金糸・銀糸をさりげなく使い、慶弔どちらの場面でも幅広く使える。ちょっとした荷物があるときに一枚持っているとお宝。

■W 320 × D 80 × H 380mm
18,900円
加賀繡 華工房
ショップ No ④ → P26

葎ヶ浦悦子 (よしがうら えつこ) 作
筒バッグ

現代的にアレンジした加賀繡。フォーマルでもカジュアルでも使えるようなキュートな形のバッグ。子どものパーティ用バッグとしても利用でき、親子でお揃いもいいのでは。

■φ 110 × H 310mm 70,000円
加賀繡 葎ヶ浦悦子工房
ショップ No ④ → P26



レスやバッグ、アクセサリなどにも施され、さまざまな年代の女性に愛されています。しかしその真価を発揮するのは、やはり着物や帯を飾るときではないでしょうか。加賀繡の職人は、これ以上足すものも引くものもない完成された図案と、着たときに映える刺繍の配置に心を配り、絹の上に華やかな立体感と上品な光沢を表現します。

かつて加賀繡は「まぼろしの刺繍」といわれていました。その存在があまり知られておらず、繡の着物を手にとった人がその美しさに驚いても、産地や由来が分からなかったのです。近年は認知度も少しずつ高まり、作家を目指す若者も増えていきます。伝統の技術に瑞々しい感性が加わることで、新たな表現が生まれ、まぼろしの刺繍が「加賀繡」として広まっていくことでしょう。(石川県加賀刺繍協同組合 理事長 葎ヶ浦悦子)



伝統工芸士 /
石川県加賀刺繍協同組合
理事長
葎ヶ浦 悦子
よしがうら・えつこ

平成4年に独立し、繡工房「繭鳥」を主宰。平成13年伝統工芸士に認定。平成21年、工房名を「加賀繡葎ヶ浦悦子工房」に改名し、自らの創作活動に励む傍ら、未来の伝統工芸士を育てている。

河村淑子 (かむらら すく) 作
名古屋帯「アカマンマ」

アカマンマは別名をイヌタデといい、道端で花を咲かせる身近な植物。空間に奥行きを持たせつつ、可憐な姿を繡で丁寧に表現した。

葎ヶ浦悦子 (よしがうら えつこ) 作
クラッチバッグ「カメリア」

葎ヶ浦氏の代名詞でもある椿を品良くあしらったクラッチバッグ。ふっくらとしたフォルムで、和装にはもちろん、洋装にも合う。

「繡」は刺繍を意味する古称で、金沢には室町時代初期に京都から技術が伝えられ、仏前の打敷や僧侶の袈裟を飾りました。繡の技術が「装い」に用いられるようになったのは江戸時代のこと。藩主の陣羽織や奥方の着物を彩り、加賀繡として独自の発展を遂げます。大正から昭和にかけては刺繍紋を入れた半襟が流行し、加賀繡の需要は一気に高まりました。現代の加賀繡は和洋の粋を超えてド

陰

工芸王国・金沢の底力

金箔が伝える
日本の美意識

美

礼

陰影の中に、
輪郭のない光をもたらす金箔。
金沢箔の技と歴史を通して、
日本人の美意識を
探求します。

陰翳礼讃

谷崎潤一郎の随筆。「経済往来」昭和8年12月号・9年1月号に掲載。まだ電灯がなかった時代の今日と違った美の感覚を論じたもの。こうした時代西洋では可能な限り部屋を明るくし、陰翳を消す事に執着したが、日本ではむしろ陰翳を認め、それを利用する事で陰翳の中でこそ生える芸術を作り上げたのであり、それこそが日本古来の芸術の特徴だと主張する。こうした主張のもと、建築、照明、紙、食器、食べ物、化粧、能や歌舞伎の衣装など、多岐にわたって陰翳の考察がなされている。日本的なデザインを考える上でも注目され、原研哉が『デザインのデザイン』の中でも触れている。

谷崎潤一郎

1886年（明治19年）- 1965年（昭和40年）日本の小説家。明治末期から第二次世界大戦後の昭和中期まで、戦中・戦後の一時期を除き終生旺盛な執筆活動を続け、国内外でその作品の芸術性が高い評価を得た。現在においても近代日本文学を代表する小説家の一人として、評価は非常に高い。代表作には『痴人の愛』『春琴抄』『細雪』などがある。

約4万枚の金箔を使って仕上げられた「黄金の茶室」（写真提供：箔座本店）



東京スカイツリー

2012年5月に開業した世界一の高さを誇る電波塔。タワー中心部に作られた「心柱」の外周を囲む光壁を中心に、金箔箔の建築装飾が採用され、世界各国から訪れる人たちに日本の伝統技術の美しさを伝えている。写真提供：(株)箔一

JR九州新幹線「つばめ 800系」

2011年の九州新幹線全線開通に向けて導入された車両。交通機関に求められる厳しい耐火性能、耐久性能もクリアし、日本らしい新幹線の内装にこだわった同車両の壁面に金箔が採用されている。写真提供：(株)箔一

iPhone (4/4S) カバー

世界中で愛用されているiPhoneのカバーに金箔が貼られている。シンプルなデザインだが金箔の輝きに引きつけられる。日常的に使うことで、金箔の伝統や美しさを身近に感じてほしい。写真提供：(株)金銀箔工芸さくだ

箔ガラス

板ガラスどうしの中に金箔を挟み込む事で、箔の風合いに透かしが加わり、新しい一面を引き出しており、インテリアや建材等でアートとして大きく拡がりを見せている。写真提供：(株)今井金箔



アクリルバングル・アクリルリング

箔本来の力と美しさを身近に楽しむことができるアクセサリ。アクリルの内側に箔座オリジナルの純金プラチナ箔を置いて仕上げられており、その美しさに加えてバングルとリング自体が軽くてファッションナブルなのも魅力である。取扱店舗：箔座ひかり蔵



「黄金のよもぎ」金沢に残る 伝説と技術

陰翳 礼讃



金箔霊泉

金沢という地名が発祥したと言われている兼六園の「金城霊澤（きんじょうれいたく）」を模した井戸。中央に清水が湧き出ており、囲みはすべて純金箔を装い泉底には3万個の純金露玉が散りばめられている。写真提供：(株)今井金箔

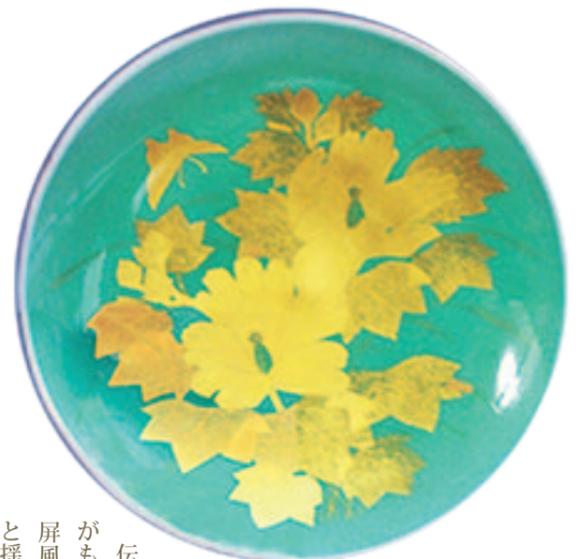


大阪駅時計塔

大阪駅の大規模開発時に、街の新しいシンボルとして設置された金の時計。開放感あふれる空間で、豪華な輝きを放ち、圧倒的な存在感を示している。写真提供：(株)箔一

吉田美統 (よしだ・みのり) 作 柚裏金彩 飾り皿

重要無形文化財保持者（人間国宝）、錦山窯三代。柚裏金彩の技法を追究する中で色釉の表し方、金箔の扱い方などに創意工夫をこらし、金彩の世界に新生面を開くと共にその技法の洗練度・完成度を高めた。写真提供：かなざわカタニ



陰影がもたらす 幽玄の世界

ものが光に照らされることによってできる「陰影」は、日本の視覚的な表現における重要な役割を担ってきました。伝統的な日本家屋には明かり障子ももたらす柔らかな陰影空間があり、屏風絵や掛け軸は淡い光やちらちらと揺れる蠟燭の灯りで鑑賞してこそ艶やかさを増します。

近代日本文学を代表する小説家谷崎潤一郎は、随筆「陰翳礼讃」の中で、「日本座敷の美は全く陰翳の濃淡に依って生れている」と述べ、部屋を明るくして陰影を消すことに執着した西洋に対し、陰影の内にもその美の本質を見出すのが日本的な美意識であると主張しています。

歴史と文化を彩る 金箔の輝き

陰影を好む日本の暮らしの中に輪郭をもたない光の美をもたらすのが金箔です。現在、国内産金箔の九十九%を生産する金沢は、古くから不思議

と「金」と縁があるまちです。かつて藤五郎と呼ばれるこの地の農夫が山で掘ってきた芋を沢で洗っていると、泥に交じってたくさん砂金が見つかりました。藤五郎は長者となり、沢は「金洗いの沢」と呼ばれて現在の「金沢」の地名につながったと伝えられます。

金沢にはまた、多湿な気候が箔打ちに適していること、市川を流れる浅野川、犀川によって製造工程に欠かせない軟水がもたらされること

などから、四百年に渡って金箔を生産してきた歴史があります。江戸時代は金銀箔の生産は幕府の管理下に置かれたが、加賀藩は百万石の大藩の金箔需要を満たすため、密かに金箔を打ち続けました。金箔は金沢城や家臣の屋敷の装飾に欠かすことのできない材料だったので。

文豪が讃えた「陰影に潜む美」を具現化

金沢の金箔は明治維新後、技術的にも産業的にも大きな発展を遂げ、金を一万分の一ミリの薄さまで延ばす極限の技で他産地をしのご存在となりました。

「金箔」の名で知られる現在の金沢産の金箔は、金閣寺（京都）や中尊寺金色堂（岩手）、東大寺大仏殿（奈良）、日光東照宮（栃木）などの国宝や重要文化財、美術工芸品など、日本が誇る文化遺産の補修・修復に用いられています。なかでも藩政期から受け継がれる伝統的な「縁付製法」で生産される金箔は、高く評価されています。これは三〜四ヶ月かけて仕込んだ雁皮紙を主紙（箔打ち紙）として用いるもので、金箔に波打つような質感と、柔

日本の美意識を いまの暮らしに ちりばめて

箔ガラス— hune — 四号色箔

市松 一号色箔×三步色箔
菱形 銀箔×ホワイトゴールド箔

合わせガラスに箔をはさみ込んだ「箔ガラス」シリーズの新作。ガラスの両端をゆるやかにカーブさせ、持ち易く、小皿として扱い易い形にした。料理の他に、一輪挿やお香立置としても使える。

■ W 180 × D 110mm
四号色箔・菱形 各 10,000 円
市松 11,000 円
（糊今井金箔）
ショップ No 17 → P25



陰翳 礼讃



おぼろ月

金箔で、おぼろ月をモチーフに描いたシリーズ。国産の栓の木を極限まで薄く挽き、用の美を実現。木目を活かした拭き漆で仕上げることで、深みのある光沢を持たせている。

■ ボウル 6 寸 ¥8,400 / φ 180mm × H56mm
ボウル 8 寸 ¥10,500 / φ 240mm × H56mm
ボウル 10 寸 ¥14,700 / φ 300mm × H56mm

（糊）箔一本店 箔巧館
ショップ No 21 → P25

和な風合いが生まれます。究極の薄さと、しっとりとした上品な輝きを持つ金箔は、どんな複雑な模様の材料にも箔押しができて、かつその輝きを失うことはありません。美術工芸が盛んな金沢においては、仏壇をはじめ、漆器、九谷焼、加賀織、桐工芸などの加飾に用いられるとともに、近年は建材やインテリア、化粧品、食品、生活雑貨にまで用途を広げ、深みのある輝きで人々を魅了し続けています。



アート箔 額装「干支 巳」

写真やイラストからデザインを起し、金箔の浮き出し加工を施しパネルに仕上げる技法のアート箔。干支の飾り額をはじめ、新店舗や新社屋の完成記念などに最適。

■ W 125 × D 125mm / 2,950 円
かなざわかたニ
ショップ No 18 → P25



グログランバッグ平型

純金プラチナ箔のドットを配した和モダンなバッグで、墨、紅、鼠、砂の4色がある。コンパクトなのでサブバッグとして重宝し、洋服にも着物にも合う。中の色が違うのも心憎い。

■ W 230 × H 220mm / 各 8,400 円
箔座ひかり蔵
ショップ No 22 → P25

金箔時絵ボールペン（芸者、富士山）

純金箔を貼った軸に雅な時絵をあしらった「水性ローラーボールペン」日本の四季や風土を表した古典柄は、職人が1本1本丁寧に絵付けした国内製作品。桐箱に収められ、大切な人への贈り物やお祝いに最適。

■ φ 15 × D 140mm / 各 6,300 円
金箔工芸 田じま
ショップ No 20 → P25



花入れタペストリー「円窓」

縁起のよい円窓に籠の花入れが付いているタペストリー。お茶花が似合いそう。金箔のシャープなラインがきいており、和・洋問わず飾りたい。

■ W 300 × H 970mm / 11,760 円
（糊）金銀箔工芸さくだ・本店
ショップ No 19 → P25



上質な日常を 演出する 金沢からの お薦めの逸品

KABURAKI SAKAZUKIシリーズ
酒グラス(本金青粒、本金白粒) [金沢九谷]
金沢九谷振興協同組合 ショップNo 10 ↓ P.25



日本酒は本来どんな盃で飲むのが正しいのか? 盃と日本酒との関係を追及するため、開発プロジェクトを立ち上げ作成した。大吟醸酒等すべての種類に合い、飲み口のシルエットが非常に美しくおしゃれに飲める逸品。
■φ 70×H155mm/各21,000円

堀川十喜作
六角赤絵 水滴 [金沢九谷]
金沢九谷振興協同組合 ショップNo 12 ↓ P.25



器は小さいが赤絵等細部の仕上がりが素晴らしい。色使いや柄の細かさなど堀川氏のこだわりが十分に感じられる作品。書道をされる方には是非送っていただきたい。
■φ 40×H 40ミリ/22,575円

香雅 [水引細工]
千と世水引 ショップNo 43 ↓ P.26



千と世水引の売れ筋商品。独特の色合いの水引細工に忍ばせた日本伝統の懐かしい香りは、喧騒の中においても心を落ち着かせてくれる。
■φ 80×H 80mm/各 5,250円

花譜ロックグラス
(小菊・青椿・葡萄) [金沢九谷]
金沢九谷振興協同組合 ショップNo 16 ↓ P.25



焼酎と氷を入れて楽しみたい大人のロックグラス。四季の花を愛でながらゆっくりとお酒を味わうひとときを演出。また、持ちやすいデザインなのでお茶やコーヒーにも合うと好評。
■φ 95×H 90mm/各 1,260円

吉田勝山作
水滴草花(りんどう・あざみ・椿) [金沢九谷]
金沢九谷振興協同組合 ショップNo 9 ↓ P.25



書道の道具・九谷焼の水滴に、りんどうやあざみ、椿などの季節の草花がのびやかに描かれ、おしゃれに彩っている。愛らしい道具として心も和む逸品。
■りんどう・あざみ: φ 60~65mm/各 3,780円
■椿: φ 95×H 55mm/4,620円

清瀬一光作

兼六園の四季 漆額「杜若」 [金沢漆器]
金沢漆器商工業協同組合 ショップNo 6 ↓ P.25



金沢漆器に兼六園の四季の様子を描いた加賀蒔絵のパネル。園内を流れる曲水とその水辺に咲く杜若の姿を、一輪ではあるが存在感を持たせて見事に描いている。
■ W 290×D 25×H 290mm / 37,800円

姫華丸茶托(二客)
姫華丸銘々皿(二客) [金沢漆器]
株式会社 ショップNo 6 ↓ P.25



丁寧に仕上げた漆器に金沢独特の加賀蒔絵を施している。梅や紅葉、萩など四季の花々を描いており、通年使用が可能。深みのある上質な漆器をぜひお手に。
■茶托 φ 125×H 25mm / 27,300円
■銘々皿 φ 125×H 23mm / 31,500円

田村一舟作
蒔絵ペンダントトップ [金沢漆器]
株式会社 ショップNo 7 ↓ P.25



天然石とクリスタルジュエリーブランドのエイニー(ainy)によるデザイン宝飾と、漆芸家・田村一舟氏の加賀蒔絵。注目のコラボレーションで完成したオリジナルアクセサリ。
■ W 25×H 20~45mm / 各 189,000円

田村一舟作

兼六園の四季 漆額「萩」 [金沢漆器]
金沢漆器商工業協同組合 ショップNo 6 ↓ P.25



兼六園の四季を蒔絵で描いた作品。萩の花とその向こうに江戸時代から続く噴水が勢よくあがる構図。高蒔絵の技法も使い、躍動感のある飾りパネルとなっている。
■ W 290×D 25×H 290mm / 37,800円

雪月花名刺箱 [金沢漆器]
株式会社 ショップNo 6 ↓ P.25



下弦の三日月と雪輪、桜の花を描いた雪月花の蒔絵を蓋の上に施した名刺箱。強度を持たせ、デザイン性もアップさせるため、錫で蒔く覆輪を施している。
■ W 110×D 75×H 45mm / 32,000円

田村一舟作
蒔絵ペンダントトップ [金沢漆器]
株式会社 ショップNo 7 ↓ P.25



絵柄の細部にまでこだわった加賀蒔絵を施したペンダントトップ。天然石や金具としっとりなじみ、世界に知られる田村一舟氏の粋を極めた技に触れられる。
■ W 20×H 50~60mm / 各 168,000円

前三方開き仏壇

70代(真宗大谷派) [金沢仏壇]

常塗師岡仏壇店 ショップNo 34 ↓ P.26



新しい形の前三方開き仏壇で、表戸と障子戸が一体型になっており仏間のスペースを考慮し制作した。金箔は金沢の仏壇に用いられる伝統的な艶出しを施し、蒔絵は花鳥で統一した。

■ W 680 × D 620 × H 1,610mm / 3,150,000円

新デザイン金沢仏壇

50代 [金沢仏壇]

旬匠楽大竹仏壇製作所

ショップNo 33 ↓ P.26



仏間がなくフローリングが多い現代の住宅事情にあわせて考案。扉を閉じた時の外観は螺鈿のみで表現し、開いた時に見える蒔絵は金沢らしいものに、そして金箔はつや消しにして落ち着きを与えるデザインにした。

■ W 530 × D 430 × H 1,240mm / 1,890,000円

木瓜型五幅掛仏壇

[金沢仏壇]

金沢仏壇商工業協同組合 ショップNo 30 ↓ P.26



本尊と脇仏とその両側に法名軸が二幅掛けられ、法名軸が正面から拝みやすい設計となっている。また仏壇の裏にご先祖の大事な物を収納する棚がある。

■ W 640 × D 460 × H 850mm / 1,300,000円

メモリアルステージ

[金沢仏壇]

旬匠楽大竹仏壇製作所

ショップNo 33 ↓ P.26



扉を外しステージ型にしてどの宗派にも使用できる様にした。コンパクトなので手入れが易く、持ち運びが出来て、家以外での法要にも使える。

■ W 360 × D 350 × H 340mm / 157,500円

荒井美智子作

数珠入 [加賀繡]

加賀繡華工房 ショップNo 24 ↓ P.26



バッグに数珠を入れるときに便利な数珠入れ。控えめな草花の刺繍は、加賀繡独自の特徴がよくてた女性らしい仕上がり。ふくよかな半円形ラインもステキ。

■ W 150 × D 85mm / 各 8,925円

葎ヶ浦悦子 × 上田裕子作

ペンダント、ブローチ [加賀繡]

加賀繡 葎ヶ浦悦子工房 ショップNo 23 ↓ P.26



加賀繡伝統工芸士・葎ヶ浦悦子氏と金作家・上田裕子氏のコラボレートで実現したアクセサリ。色鮮やかな絹糸と純銀の輝き。ペンダントの裏側には、透かし彫りの花模様が隠れたアクセントとして生きている。

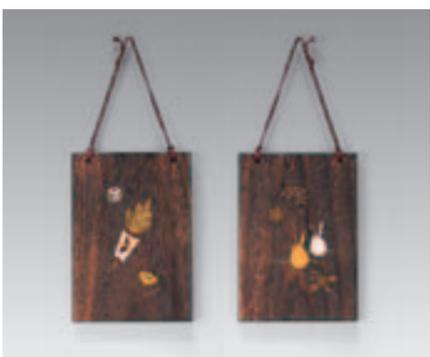
■ペンダント W 15 × D 40mm / 各 10,500円

■ブローチ W 10 × D 65mm / 各 10,500円

リバーシブル壁掛け

「重陽と正月」 [桐漆工芸]

金沢桐工芸 岩本清商店 ショップNo 41 ↓ P.26



焼き桐に錆上げ蒔絵を施してある壁掛け。月見のウサギを描いた重陽の節句と、サイコロやコマの正月と、2面使えるリバーシブル。焼き桐は軽く、壁にピンでもとめられ、和室、洋室にも合いそう。

■ W 150 × D 15 × H 210mm / 12,600円

毛針と羽毛のピアス

[加賀毛針]

目細八郎兵衛商店 ショップNo 46 ↓ P.26



江戸時代から続く加賀毛針の技術を応用し、現代に合うアクセサリを制作。風にかろやかに揺れるピアスは人気で、国内のみならず、世界の注目を集めている。

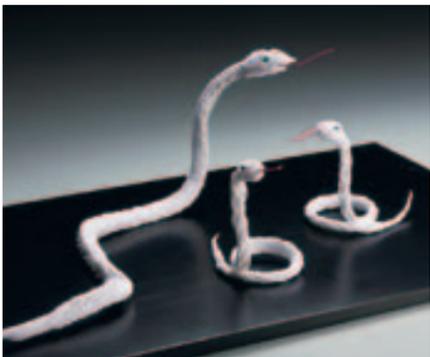
■ W 15 ~ 25 × H 65 ~ 75mm

各 4,830円

水引細工干支招福巳

[加賀水引細工]

旬津田水引折型 ショップNo 44 ↓ P.26



干支シリーズの一つで平成 25 年の干支・巳がテーマ。開運パワーがあり縁起がいいといわれる白蛇をモチーフにしている。愛らしさも感じる白蛇は、床の間や玄関に飾るもよし、リビングもよし。

■小：φ 70 × D 120mm / 各 4,800円

■大：参考商品

桐三ツ引タンス

[桐漆工芸]

桐漆工芸 上坂 ショップNo 42 ↓ P.26



神代ニレの根を綺麗に磨き上げた物を桐の白生地に木象嵌し、シンプルなラインを入れた。桐は軽く、耐湿、耐火性にすぐれており、大事な小物を収納するには上坂のタンスをお薦めしたい。

■ W 160 × D 188 × H 215mm / 13,650円

加賀ゆびぬき

[金沢・クラフト広坂]

ショップNo 48 ↓ P.26



色鮮やかな五彩の絹糸を操り、巧みな幾何学模様を描いて作ってある。カラフルで可愛らしく大変人気がある。

■各 3,800円

金沢の希少伝統工芸品は
コチラでもお求めに
なれます。



金沢・クラフト広坂
ショップNo 48 → P.26

www.crafts-hirosaka.jp

〒920-0962 石川県金沢市広坂 1-2-25 金沢能楽美術館内
TEL. 076-265-3320 FAX. 076-265-3321
営業時間 / 10:00 ~ 18:00 定休日 / 月曜日
(休日の場合はその翌日)、年末年始

金沢伝統工芸ショップガイド

お気に入りの逸品を選ぶ、時間をゆっくり楽しむ。
旅の折に訪ねたい、伝統工芸のショップガイド。(50音順)

金沢箔

石川県箔工業協同組合
☎ 076-257-5572 (土・日・祝休)

17 (株) 今井金箔

〒920-0968 金沢市幸町 7-3
☎ 076-223-8989
E-mail info@kinpaku.co.jp
9時30分～18時/水曜休
体験は10時00分～、13時00分～、15時～)
■ 角皿 ¥750/マイバック ¥1,200/長角トレー ¥1,500 他
■ JR金沢駅から北鉄/バス花里経由東部車庫行きで約15分、思案橋下車、徒歩約1分
www.kinpaku.co.jp/

体験



要予約
所要時間
30分～

体験

18 かなざわカタニ

〒920-0910 金沢市新町 6-33
☎ 076-231-1566
E-mail officedotcom@katani.co.jp
9時～17時/無休(12月30日～1月3日休)
■ 銘々皿 ¥900/小箱 ¥1,100/弁当箱 ¥1,800 他
■ JR金沢駅から北鉄/バスまたはJR西日本/バス橋場町方面行きで約6分、尾張町下車、徒歩約2分
www.k-katani.com/



要予約
所要時間
60分～

体験

19 (株) 金銀箔工芸さくだ・本店

〒920-0831 金沢市東山 1-3-27
☎ 076-251-6777
E-mail kinpaku@goldleaf-sakuda.jp
9時～18時/年中無休
(体験は9時～、10時30分～、13時～、15時～)
■ 着し膳 ¥600/小箱 ¥1,100/フリーラック ¥1,600 他
■ JR金沢駅からJR西日本/バス鳴和方面行きで約10分、東山下車、徒歩約2分
www.goldleaf-sakuda.jp



要予約
所要時間
60分～

体験

20 金箔工芸 田じま

〒920-0855 金沢市武蔵町 11-1 2F
☎ 076-263-0221
E-mail info@tajima-kinpaku.co.jp
10時～17時30分/火曜休(夏季、冬季休業あり)
(体験は平日限定)
■ 銘々皿 ¥1,000、箸一膳 ¥1,000、小判 ¥1,000 他
■ JR金沢駅から北鉄/バスまたはJR西日本/バス橋場町方面行きで約4分、武蔵ヶ辻下車、徒歩約2分
www.tajima-kinpaku.com



要予約
所要時間
40分～

21 (株) 箔一本店 箔巧館

〒921-8061 金沢市森戸 2-1-1
☎ 076-240-0891
E-mail info@hakuichi.co.jp
9時～18時/年中無休(1月1日は休館)
www.hakuichi.co.jp/



体験

かなざわ 美かざりあさの

金沢市東山 1-8-3 ☎ 076-251-8911
9時～18時(体験は10時～15時)
火曜休(年末年始は休)
■ ¥1,500～
■ JR金沢駅から北鉄/バスまたはJR西日本/バス橋場町方面行きで約8分、橋場町下車、徒歩約4分



要予約
所要時間
30分～

22 箔座ひかり蔵

〒920-0831 金沢市東山 1-13-18
☎ 076-251-8930
E-mail hikarigura@hakuza.co.jp
9時30分～18時/年中無休(冬季17時30分まで)
www.hakuza.co.jp/



体験

箔座稽古処

金沢市東山 1-13-18(箔座ひかり蔵内)
☎ 076-252-3641
10時～17時(体験は10時～、11時～、13時30分～、14時30分～、15時30分～、16時30分～)
日・月曜、祝日、年末年始は休
■ はがき ¥500、箸 ¥800、塗り皿 ¥2,500 ほか
■ JR金沢駅から北鉄/バスまたはJR西日本/バス橋場町方面行きで約8分、橋場町下車、徒歩約4分



要予約
所要時間
10分～

金沢九谷

金沢九谷振興協同組合
九谷焼 鑄木商舗内
☎ 076-221-6666 E-mail kanazawa@kaburaki.jp

8 大樋焼 松雲窯

〒920-0996 金沢市油車 38-1
☎ 076-221-2904
E-mail showngama-38@arrow.ocn.ne.jp
9時～18時/年中無休



9 片岡光山堂

〒920-0936 金沢市兼六町 2-1
☎ 076-221-1291
4～10月/9時～18時/無休
11～3月/9時30分～17時/水曜休



片岡光山堂

10 九谷焼 鑄木商舗

(金沢九谷焼ミュージアム併設)
〒920-0865 金沢市長町 1-3-16
☎ 076-221-6666
E-mail kanazawa@kaburaki.jp
9時～22時(日曜・祝日:9時～18時)/年中無休(不定休)
www.kaburaki.jp/



11 九谷巴商会

〒920-0936 金沢市兼六町 2-13
☎ 076-231-0474
E-mail akira23@guitar.ocn.ne.jp
10時～18時/無休



九谷巴商会

12 九谷焼 諸江屋

〒920-0981 金沢市片町 1-3-22
☎ 076-263-7331
E-mail kutani@moroeya.com
9時～20時/水曜休
www.moroeya.com/



13 黒龍堂

〒920-0853 金沢市本町 1-5-3
リファレー 1F
☎ 076-221-2039
E-mail kutani@kokuryudo.com
9時～19時/火曜休(祝日を除く)
www.kokuryudo.com/



14 陶庵

〒921-8011 金沢市入江 2-401
☎ 076-291-2533
E-mail info@to-an.jp
13時～21時/年中無休
■ 電動ろくろ体験 ¥3,500、手びねり体験 ¥2,500
下絵付け体験 ¥3,000
<http://to-an.jp>



15 陶房 長寿

〒920-0961 金沢市香林坊 2-4-5
☎ 076-221-1822
E-mail honten@chojudo.com
10時～17時/水曜・第1,3火曜休
■ 湯呑み ¥1,260～
■ JR金沢駅から北鉄/バス香林坊方面行きで約8分、香林坊下車、徒歩約2分
www.chojudo.com/



16 北山堂

〒920-0962 金沢市広坂 1-2-33
☎ 076-231-5288
E-mail office@hokusando.co.jp
9時30分～18時30分/月曜休
www.hokusando.co.jp/



加賀友禅

協同組合加賀染振興協会
加賀友禅伝統産業会館
☎ 076-224-5511 E-mail info@kagayuzen.or.jp

1 加賀友禅伝統産業会館

〒920-0932 金沢市小將町 8-8
☎ 076-224-5511
E-mail info@kagayuzen.or.jp
9時～17時/水曜休(祝日を除く)
■ 友禅型染め体験 ¥1,575
手描き友禅体験 ¥2,625/きもの着用体験 ¥2,000
■ JR金沢駅から城下まち金沢周遊バスで約18分、兼六園下車、徒歩約2分
www.kagayuzen.or.jp/



要予約
所要時間
20分～

体験

2 長町友禅館

〒920-0865 金沢市長町 2-6-16
☎ 076-264-2811
E-mail mail@kagayuzen-club.co.jp
9時～17時/無休(年末年始のみ休)
(体験受付は15時まで)
■ 彩色体験 ¥4,000、着装体験 ¥1,000、
街着きもの貸出 ¥4,000
■ JR金沢駅から北鉄/バス香林坊方面行きで約8分、
香林坊下車、徒歩約10分
www.kagayuzen-club.co.jp/



要予約
所要時間
60分～

3 加賀友禅 毎田染画工芸

〒920-0964 金沢市本多町 3-9-19
☎ 076-221-3365
E-mail info@maida-yuzen.com
9時～17時30分/日曜休
www.maida-yuzen.com



金沢漆器

金沢漆器商工業協同組合
金沢商工会議所内
☎ 076-263-1157 (土・日・祝休)

4 赤地漆器店

〒920-0805 金沢市小町 12-2
☎ 076-252-8939
9時～19時/日・祝祭休



赤地漆器店

5 (株) 石田漆器店

〒920-0981 金沢市片町 1-7-21
☎ 076-261-2364
E-mail ishida@e-katamachi.com
10時～19時/水曜休
www3.nsknet.or.jp/~ishida/



6 (株) 能作

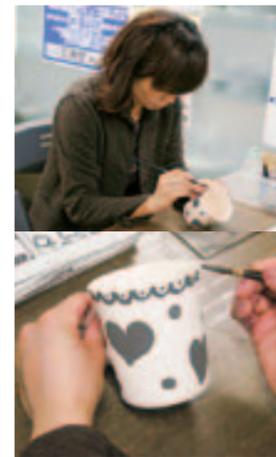
〒920-0962 金沢市広坂 1-1-60
☎ 076-263-8121
E-mail nosaku@kanazawa.gr.jp
10時～19時/水曜休(8月は無休)
(体験は10時30分～、13時30分～)
■ 盆 ¥3,150
■ JR金沢駅から北鉄/バス香林坊方面行きで約8分、
香林坊下車、徒歩約5分
www.kanazawa.gr.jp/nosaku/



要予約
所要時間
60分～

7 (株) 和幸

〒921-8163 金沢市横川 7-43
☎ 076-247-4455
E-mail wakou@nsknet.or.jp
9時～18時/日・祝・第2,4土曜休
www.kanazawa-wako.jp



金沢九谷

九谷焼は、江戸時代初期に大聖寺の九谷村で始まったと伝えられています。呉須(ごす)と呼ばれる藍青色で線描きし、赤、黄、緑、紫、紺青の五彩と呼ばれる5色の絵具で、花鳥、山水などの絵柄を大胆な構図で描いたものです。古九谷に始まり木米、吉田屋、庄三、永楽など数々の作風が生まれました。体験では、九谷焼の絵付けができます。



加賀水引

見学

古くから結納飾りや金封などに施されてきた加賀水引。和紙をこよりにした水引は、金や銀、赤、白など多彩な色があります。津田水引折型は、それまで平面的だった水引細工を立体的に仕上げた創作水引が特徴で、全国にその名が知られ加賀水引の位置づけがされました。工房兼販売ショップの野町店では、加賀水引の制作風景の見学が可能です。



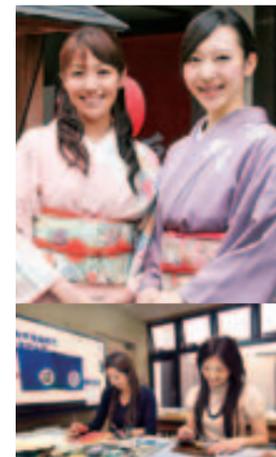
金沢漆器

江戸時代から大名好みの品位をもった高級漆器として制作されてきた金沢漆器。加賀蒔絵とよばれる繊細で緻密な加飾が特徴で、主に茶道具や調度品などを制作。優美で力強く、まさに加賀藩を象徴するかのよう独特の漆工芸品です。体験は、あらかじめ上塗を終えた漆器に豪華な蒔絵を施すもので、金・銀・朱などの粉を蒔いて仕上げます。



加賀毛針

針を釣る道具、擬餌針として作られてきた加賀毛針。その美しさやアート性から、現代ではブローチやピアス、チョーカー、髪飾りなどのモダンなアクセサリが評判になっています。体験では、数十種類もあるカラフルな羽毛から自分好みを選び、組み合わせてブローチをつくりたい。丁寧な指導があるので、初心者も大満足の体験です。



加賀友禅

金沢の四季の風景や草花などの自然を見事に描いた加賀友禅。訪問着や留袖などの着物のほか、風呂敷やバッグ、扇子、財布、友禅ハンカチなど、求めやすい価格の和装小物などがあります。制作には数々の工程がありますが、体験では簡単にできる手描き染めや型染めができます。また、加賀友禅や街着用着物の着用体験も受け付けています。



加賀繻

金糸や銀糸のほかに色とりどりの絹糸をあやつり、絵画のように描いていく刺繻。金沢では江戸時代に武士や姫たちの着物や帯に施され、華やかで雅な加賀繻として受け継がれてきました。今ではフォーマルなドレスやバッグ、アクセサリ、魔除けや御守りとなる小物も人気をよんでいます。体験はストラップなどの小物が主体となります。

体験する

金沢の伝統工芸は江戸時代から受け継がれてきた丁寧な手仕事です。初心者や家族でも気軽に体験できるプランも用意されているので、ぜひ金沢でチャレンジしましょう。



このマークが目印!



金沢箔

金箔は主に仏壇や武具、調度品など、洗練された豪華な加飾に使用されてきました。最近ではその用途を広げ、手鏡や小箱、USBメモリの装飾のほか、金箔を使った美容液など、目的や販路も拡大しています。金沢市内6店舗では、箔貼り体験や箔移し体験を実施しています。体験にふれるよい機会となっています。所要時間は30分～60分程度。



43 千と世水引
 〒 920-0902 金沢市尾張町 1-9-26
 ☎ 076-221-0278
 9時30分～17時(土曜・祝日のみ10時～16時)
 日曜休 3月～12月の第2・第4土曜休(祝日は不定休)
www.chitosemizuhiki.com



見学

44 (有) 津田水引折型
 〒 921-8031 金沢市野町 1-1-36
 ☎ 076-214-6363
 E-mail info@mizuhiki.jp
 10時～18時(土曜は12時まで)/日・祝休
 JR金沢駅から北鉄バス有松または
 平和町方面行きで約10分、片町下車、徒歩約5分
www.mizuhiki.jp/



所要時間
60分～

45 広瀬桐工芸
 〒 921-8022 金沢市中村町 30-20
 ☎ 076-241-2544
 8時～17時/土・日・祝休



体験

46 目細八郎兵衛商店
 〒 920-0854 金沢市安江町 11-35
 ☎ 076-231-6371
 E-mail webmaster@meboso.co.jp
 9時30分～18時/火曜休
 (体験は10時～15時)
 アクセサリーづくり体験(ブローチ ¥1,500)
 JR金沢駅から徒歩約6分
www.meboso.co.jp



所要予約
所要時間
60分～

**47 大樋焼本家十代長左衛門窯
大樋美術館**
 〒 920-0911 金沢市橋場町 2-17
 ☎ 076-221-2397
 9時～17時/無休
www.ohimuseum.com



48 金沢・クラフト広坂



〒 920-0962 金沢市広坂 1-2-25 金沢能楽美術館内
 ☎ 076-265-3320
 E-mail info@crafts-hirosaka.jp
 10時～18時/月曜休(祝日の場合翌日休)
 年末年始12月29日～1月1日休
www.crafts-hirosaka.jp
 20業種を超える金沢の伝統工芸品を展示販売。普段
 使いができるアクセサリやストラップなど小物が主
 体なので、気軽に見て楽しんで買うことができる。

その他

49 金沢能楽美術館
 〒 920-0962 金沢市広坂 1-2-25
 ☎ 076-220-2790
 10～18時 月曜休(祝日の場合翌日休)
 年末年始12月29日～1月1日休
www.kanazawa-noh-museum.gr.jp



50 金沢市立安江金箔工芸館
 〒 920-0831 金沢市東山 1-3-10
 ☎ 076-251-8950
 9時30分～17時
 年末年始(12月29日～1月1日) 展示替期間
www.kanazawa.museum.jp/kinpaku



31 北村仏壇店
 〒 921-8815 野々市市本町 5-4-7
 ☎ 076-248-3362
 8時～18時



32 (株) 澤田仏壇店
 〒 920-0854 金沢市安江町 3-15
 ☎ 076-221-2212
 9時30分～18時30分/火曜休
 澤田仏壇店 検索



33 (有) 匠楽 大竹仏壇製作所
 〒 921-8046 金沢市大桑町 2-121
 ☎ 076-244-4069
 E-mail otkdento@rudu.ocn.ne.jp
 9時30分～20時/第2,4火曜休
 匠楽 大竹仏壇製作所 検索



34 (有) 塗師岡仏壇店
 〒 920-0843 金沢市森山 2-1-29
 ☎ 076-253-2201
 8時30分～18時/木曜休
 塗師岡顕治仏壇店 検索



35 (有) 塗師岡仏壇店
 〒 921-8031 金沢市野町 1-2-36
 ☎ 076-241-0795
 平日10時～18時 土日祝13時～18時/日曜休
 塗師岡政秀仏壇店 検索



36 はやし仏壇店
 〒 921-8033 金沢市寺町 5-5-17
 ☎ 076-241-8690
 9時～18時/日曜休
www.geocities.jp/hayashi_butsudan/



37 三島仏壇
 〒 920-0862 金沢市芳斉 2-4-2
 ☎ 076-221-8015
 9時～18時/日曜休



38 森田仏壇店
 〒 921-8031 金沢市野町 3-2-38
 ☎ 076-241-1375
 E-mail butudan2429@athena.ocn.ne.jp
 8時～20時/不定休
www5.ocn.ne.jp/~butudan/



39 (有) 山田仏具店
 〒 920-0854 金沢市安江町 13-3
 ☎ 076-221-2306
 E-mail info@yamadabutsuguten.co.jp
 9時～19時/火曜休 (祝日を除く)
yamadabutsuguten.co.jp/



40 (株) 米永仏壇
 〒 920-0058 金沢市示野中町 1-10
 ☎ 076-221-1930
 9時～18時/木曜休
w2223.nsk.ne.jp/~yonenaga/



希少伝統工芸

41 金沢桐工芸 岩本清商店
 〒 920-0845 金沢市狐草町 3-2
 ☎ 076-231-5421
 E-mail info@kirikougei.com
 10時～18時30分/火曜休
www.kirikougei.com



42 桐漆工芸 上坂
 〒 920-0936 金沢市兼六町 2-20
 石川県観光物産館 2F
 ☎ 076-264-1511
 10時～17時/火曜休



加賀繡

石川県加賀刺繍協同組合
 ☎ 076-225-8677
 E-mail kaganui@soleil.ocn.ne.jp
 *下記23～26の店舗への来店は必ず事前にお問い合わせ下さい。

23 加賀繡 霞ヶ浦悦子工房
 〒 920-0367 金沢市北塚町西 66-1
 ☎ 076-249-4989
 E-mail yoshigaura@kaganui.or.jp
 10時～16時/土・日・祝休
 霞ヶ浦悦子 検索



体験

24 加賀繡 華工房
 〒 921-8016 金沢市東力町イ 18 番地
 パークレジデンス 201
 ☎ 076-291-2320
 E-mail hanakoubou@kaganui.or.jp
 9時～17時/土・日・祝休
 (体験受付は平日9時～13時)
 JR金沢駅から北鉄バス打木または済生会病院行きで
 約15分、新神田下車、徒歩約8分
<http://hanakoubou.at.webry.info/>



所要予約
所要時間
60分～

25 加賀繡 IMAI
 〒 920-0944 金沢市三口新町 3-4-19
 ☎ 076-231-7595
 E-mail info@imai1912.com
 10時～17時/不定休(年末年始は休)
 体験は10時00分～17時(体験受付は15時まで)
 ☎ ¥2,500～
 JR金沢駅から北鉄バス花里経由東部車庫行きで
 約25分、赤坂下車、徒歩約3分
www.imai1912.com



所要予約
所要時間
2時間～

26 宮越仁美 繡工房
 〒 921-8034 金沢市泉野町 1-12-12
 ☎ 076-243-2992
 E-mail hitomi_m428@yahoo.co.jp
 不定休
www.kaganui.or.jp/atelier/atelier03.html



金沢仏壇

金沢仏壇商工業協同組合
 ☎ 076-223-4914
 E-mail info@kanazawa-butsudan.or.jp

27 (株) 池田大佛堂
 〒 920-0854 金沢市安江町 5-7
 ☎ 076-222-5550
 9時～18時/火曜休
 池田大佛堂 検索



28 今村佛壇店
 〒 921-8055 金沢市西金沢新町 178-1
 ☎ 076-249-1366
 9時～19時/木曜休



29 卯野屋仏壇店
 〒 920-0854 金沢市安江町 15-44
 ☎ 076-263-9570
 E-mail nobuhikouno@ezweb.ne.jp
 10時～18時30分/火曜休
 卯野屋仏壇店 検索



30 金沢仏壇商工業協同組合
 〒 920-0855 金沢市武蔵町 8-2
 ☎ 076-223-4914
 E-mail info@kanazawa-butsudan.or.jp
 9時～17時/土・日・祝休
kanazawa-butsudan.or.jp/



金沢へのアクセス

●車	東京 ▶ 練馬 IC	→	金沢森本IC
	名古屋 ▶ 名古屋一宮 JIC	→	金沢森本IC
	大阪 ▶ 吹田 IC	→	金沢西IC

約6時間30分

約2時間50分

約4時間

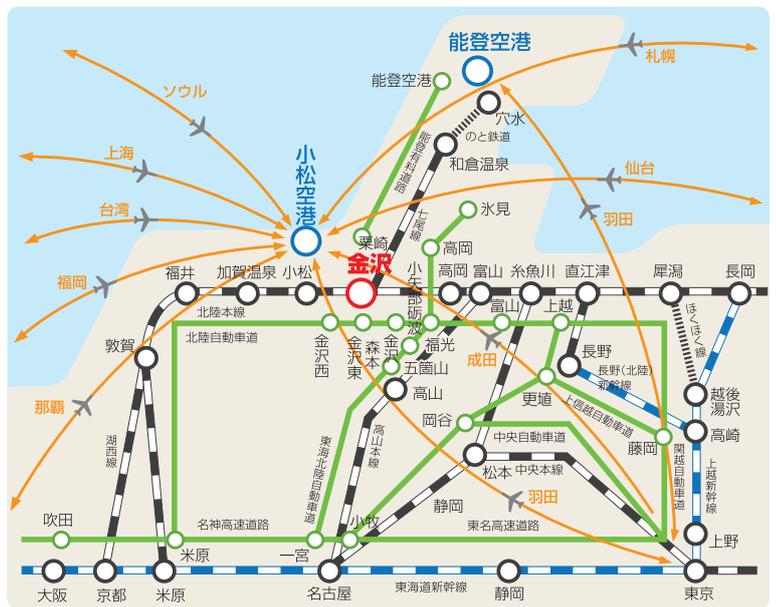
●問い合わせ先/中日本高速道路(株)金沢管理事務所 ☎(0762)49-8111

●飛行機	東京 ▶ 羽田空港	→	小松空港	→	金沢駅
		約1時間		特急バスで約40分	
	羽田空港	→	能登空港	→	金沢駅
		約1時間		特急バスで約2時間	

●問い合わせ先/小松空港総合案内所 ☎(0761)21-9803
能登空港ターミナルビル ☎(0768)26-2000

●JR	東京 ▶ 東京駅	→	金沢駅
		約4時間	(越後湯沢経由:上越新幹線、特急はくたか)
	名古屋 ▶ 名古屋駅	→	金沢駅
		約3時間(特急しらさぎ)	
	大阪 ▶ 大阪駅	→	金沢駅
		約2時間40分(特急サンダーバード)	

●問い合わせ先/JR西日本北陸案内センター ☎(0762)51-5655



暮らしに金沢の雅を取り入れる



【「ステキ」のホームページを開設しています】

www.crafts-hirosaka.jp

【制作】
金沢市

【編集・発行】
金沢工芸普及推進協会
〒920-0962 金沢市広坂 1-2-25
TEL. 076-265-3320
FAX. 076-265-3321
E-mail info@crafts-hirosaka.jp
http://www.crafts-hirosaka.jp

【編集協力】
金沢漆器商工業協同組合
金沢九谷振興協同組合
石川県箔商工業協同組合
協同組合加賀染振興協会
石川県加賀刺繍協同組合
金沢仏壇商工業協同組合

【取材・撮影協力】
歴史博物館 重要文化財 成巽閣
〒920-0936 金沢市兼六町 1 番 2 号
TEL 076-221-0580

【編集制作・印刷】
ヨシダ印刷 株式会社

